

第84回 経営協議会 議事要録

日 時 令和5年3月16日(木) 13時30分～14時30分

場 所 大学本部棟第二会議室 及び オンライン

委 員 日比野克彦 学長【議長】、迫 昭嘉 理事・副学長(教育担当)、
清水泰博 理事・副学長(研究担当)、
大場 武 理事(総務・財務・施設担当)・事務局長、
中村政人 副学長(大学改革・渉外担当)、
佐野 靖 副学長(社会連携担当)、
赤羽真紀子 委員、岡田武史 委員、高橋陽子 委員、二宮雅也 委員、
御立尚資 委員、湯浅真奈美 委員、吉本光宏 委員

陪 席 上田良一 監事、浜田健一郎 監事、麻生和子 理事、国谷裕子 理事、
岡本美津子 副学長(デジタル推進担当)、
光井 渉 美術学部長、杉本和寛 音楽学部長、
桐山孝司 大学院映像研究科長、熊倉純子 大学院国際芸術創造研究科長、
黒川廣子 大学美術館長、大森晋輔 附属図書館長
河野文昭 演奏芸術センター長

欠 席 今村有策 副学長(国際連携担当)【陪席】、
箭内道彦 学長特命(大学改革・ブランディング戦略担当)【陪席】

議題

1. 令和5年度予算実施計画書(案)について
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
2. 資金運用基本方針・基本ポートフォリオ・運用計画(案)について
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
3. 東京藝術大学職員給与規則等の一部を改正する規則等の制定について(案)
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。
4. 東京藝術大学役員報酬規則の一部を改正する規則の制定について(案)
議長から標記のことについて提案があり、審議の結果、原案どおり承認された。

(主な意見)

主な意見は以下のとおり

- 議題2について、今般アメリカのシリコンバレーバンクの経営破綻等、債権価格が大きく変動しており、資産運用においては、金融業界への影響等、専門家の意見を十分に聞いた上で慎重に行うようお願いしたい。
- 資産運用にあたっては、今後も大学自らがある程度資金を稼ぐようにしないとならず、産学連携、寄附をどのように増やしていくのかを、経営協議会外部委員とともに

今後も議論したい。

- 資産運用の投資先としては、トランジションボンドなどESG投資が注目される。トランジションボンドとは、温室効果ガス排出削減を目指す企業が、脱炭素社会に移行するためのプロジェクト等の資金調達を目的に発行する社債のことであるが、業界では、この趣旨を汲み温室効果ガスを大量に排出するところに投資すべきではないという議論もある。

報告及び連絡事項

1. 本学を代表機関とした申請構想（素案）について
議長から、本学の申請構想案について報告があった。
2. 本学の取組について
議長から、芸術文化における本学の近況について報告があった。
(本学の取り組み)
 - ・ 2023/2/16 愛媛県と包括連携協定を締結
 - ・ 2023/2/17 東京藝術大学発ベンチャーcotonが「西新宿 5G Sounding City プロジェクト」2022 年度発表会〜デジタルアートで創出！街と人の心の響き合い〜を実施
 - ・ 2023/3/2 石川県と包括連携協定を締結
 - ・ 2023/3/6 共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点が COI-NEXT の本格型（共創分野）に採択
 - ・ 2023/3/7 東京藝術大学大学院映像研究科ゲームコース展
桐山映像研究科長及び岡本副学長から、追加報告があった。
 - ・ 2023/3/10 国際線エアライン AirJapan の Boarding Music を発表
 - ・ 2023/3/10 藝大 21 第 16 回「奏楽堂企画学内公募」最優秀企画『邂逅（かいこう）の肌触り』
 - ・ 2023/3/31 「買上展」藝大コレクション展 2023
黒川大学美術館長から内覧会の予定について追加報告があった。

(その他の意見等)

- 助成金申請にあたっては、第4期中期計画に照らし合致するものについては、学内においてしっかりと計画を作り、既に連携をしている大学や企業等の協力を得ながら、申請していく予定である。
- 国の助成金については理工系を対象にしたものは多数あるが、文系を対象にしたものは少なく、国立大学協会の総会からも国に提言していく予定であるが、本学においても国にしっかりと提言していきたい。
- 先日、宇宙飛行士候補に合格した女性医師が、通信教育にて芸術学修士（MFA）の取得を目指していることが報道されていたが、一般社会でもビジネス界においても、MFAは注目されている。藝大においても、創造性やアートを用いる思考等を社会人や企業に向け教えるコース等を設置してはどうか。
- 共生社会をつくるアートコミュニケーション共創拠点がCOI-NEXTの本格型に採択されたことを受け、本取組を国際的に発信、誰でも進捗がわかるような特設ページを作成、KPIなど客観的な指標で分かりやすく効果を示す等、幅広い層へ取組を広めていくことが必要である。

以上